モルドバ独立 20 年祭・帰国報告ツアー

平成 23 年 7 月15日(金)～17 日(日)

会場：京都市国際交流会館、京都「国際学生の家」

はばたく

≪アーティスト 武田有賀≫
幼少期に、工事現場の昼休み、お弁当を食べているおじさんの顔を描いて喜んでもらった事がきっかけで似顔絵を描き続け、現在は主に両生類、霊長類、古生物など「生き物」を描いている。 一方、スペイン留学中には、ラテン音楽、国民楽派等のピアノ演奏、作曲、編曲も行っている。ピアソラの編曲家、山本京子との共著出版及び、編曲協力、デュオ「ムムキ」で活動中。
今回の絵と音楽は武田有賀さんによる。ラテン音楽が専門である武田さんのアレンジによる、モルドバ音楽や「火祭りの踊り」等の演奏を楽しんで下さい。

展示内容 写真約 20 点。会報「モルドバドキュメンタリー2011」の表紙絵原画 約 20 点

だに・鳥・蛙・鶏・あひる・山羊・豚・わに

≪報告者 川村容子≫
早稲田大学大学院教育学修士課程の時にモルドバの「子どもデイケアセンター」で日本語を教え始める。モルドバでの活動と詩を通じた民族意識に関する研究が評価され、学生支援機構から奨学金全額返済免除を受け、その資金を元に、2009 年モルドバで奨学金制度「さくらこ基金」設立。
同大学院博士課程。
2009～2011 年ルーマニア・Alexandru Ioan Cuza 国立大学に留学。

チェルノブイリ原発 25 周年を機に振り返るモルドバ共和国の農村の子供たち―カザネシュティ村の子供デイケアセンターの現状と将来への展望―
【帰国報告概要】モルドバ共和国は、1991 年にソヴィエト連邦の崩壊と共に独立した新興国家の一つであり、今年は独立 20 周年という節目の年を迎えている。同共和国は、1986 年に起こった隣国ウクライナのチェルノブイリ原発事故で大きな被害を受け、現在でも被爆の爪痕が残っている。独立後は、民主化への移行により、ソ連の統制経済の枠組みの外に置かれることになったことから、経済混乱に陥った。コルホーズは解体され、農場や工場は建物を残し機材・人材はモスクワに引き上げられた。職を失った親の多くは子どもをモルドバに残し、国外へ出稼ぎに行かざるをえない状況となった。さらには人身売買・臓器売買の問題までも浮上した。他方、モルドバの特徴は高い教育水準にある。アジア・アフリカとは異なり、モルドバを含む旧ソ連圏諸国の識字率の高さは 100%に近く、教育制度は整備されている。しかし特に農村部において子どもが不登校になるケースが多い。これには、貧困による親の国外出稼ぎが深く関与している。そのような中、現地からの要請により、1997 年、神戸にモルドバ復興支援協会は設立された。その目的は、モルドバ共和国の精神文化と経済を復興させることにあり、モルドバ政府が実施したくても経済的事情から実現できないような分野を支援している。具体的には、現地の事情を熟知している知識人が支援プロジェクトを立案し、それをもとに協議を重ね、実現可能なものから順次プロジェクトを立ち上げている。本報告ではチェルノブイリの被災状況について簡単に触れた後、カザネシュティ村において復興支援協会が支援を試みてきた子供たちの成長の様子と今後の見通しを紹介する。(報告者 早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程 川村 容子)

■□□□■□□□■□□□■□□□■□□□■□□□■□□□■□□□■□□□■□□□■□□□■□□□■□□□■□□□■□□□■□□□■□

(1)展示日時：平成23年7月15日 (金) ～7月17日 (日) 10:00-19:00 (※7月17日は17:00終了)
(2)展示会場：京都市国際交流会館 2F 姉妹都市コーナー・展示室 〒606-8536 京都市左京区粟田口鳥居町 2-1
【姉妹都市コーナー・展示室での帰国報告】7月16日(土)13:30～15:30
(3)主 催：モルドバ復興支援協会
(4)共 催：財団法人 京都「国際学生の家」
(5)後 援：財団法人 京都市国際交流協会
(5)入場料 ：無料

※ 事前申込は必要ありませんので当日お越しください。

お問合せ
モルドバ復興支援協会 沓澤 (くつざわ)
e-mail molkor.jp@ybb.ne.jp
TEL/FAX 078-594-2785

【ピアノライブと帰国報告】 演 奏 武田有賀 報告者 川村容子
日時：平成23年7月15日(金) 18:30～20:30
会場：京都「国際学生の家」 京都市左京区聖護院東町10番地